第 19 回介護福祉士　国家試験　問題・解説　（やまだ塾）

＝④リハビリテーション論＝　（問題 23～問題 26）

（2007 年 5 月 7 日 HP 掲載）

【リハビリテーション論】

問題23　介護保険法第4条（国民の努力及び義務）の空欄A，B，Cに該当する語句の組み合わせとして，正しいものを一つ選びなさい。

「国民は，自ら要介護状態となることを予防するため，加齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して常に（　A　）に努めるとともに，要介護状態となった場合においても，進んで（　B　）その他の適切な保健医療サービス及び福祉サービスを利用することにより，その有する（　C　）に努めるものとする。

	A	B	C
1	健康の保持増進	リハビリテーション	体力の維持向上
2	リハビリテーション	介護保険サービス	能力の維持向上
3	体力の維持向上	介護予防サービス	生活力の維持向上
4	健康の保持増進	リハビリテーション	能力の維持向上
5	体力の維持向上	介護保険サービス	生活力の維持向上

問題 23：正答 4×××○×

●介護保険制度では，介護サービス計画（ケアプラン）に基づいたリハビリテーションサービス（訪問看護，訪問リハビリテーション，通所リハビリテーション）が受けられる。また，介護保険では，いずれのリハビリテーションサービスにも要介護認定・要支援認定に基づくケアプランの策定が必要である。

1.×，2.×，3.×，4.○（A 健康の保持増進，B リハビリテーション，C 能力の維持向上），5.×

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題24　次の記述のうち，適切なものに○，適切でないものに×をつけた場合，その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 脳卒中のリハビリテーションにおいては，脳の循環状態が安定したところで，早期に座位の訓練を始め，起立性低血圧を予防する。

B. 脳卒中後遺症のある人の嚥下障害の訓練は，口腔衛生に注意して行う。

C. 交互昇降のできない片麻痺のある人が階段を降りるときは，麻痺側下肢から一段降ろし，次に健側下肢を同じ段に降ろす。

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

D. 運動を，患者自身の筋力で動かす自動運動と，患者以外の力による他動運動に大別すると，筋力強化には他動運動が有効である。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 24：正答 1○○○×

A.○脳血管障害（脳卒中）のリハビリテーションでは，意識が回復し，集中治療の時期が修了したら，なるべく早期に起立性低血圧の予防と関節の拘縮予防を行うことが重要とされている。起立性低血圧とは，安静状態を長く続けた後に，上半身を起こすと，頭がふらふらしたり，気分が悪くなったりする症状をいう。なお，脳血管障害は，高齢者が寝たきりになる原因の第 1 位に挙げられている。

B.○口腔内が不衛生の状態では，味覚が低下し，飲み込みの反射が起こりにくく，汚い唾液を誤嚥すると肺炎を起こす危険性が高まる。

C.○上りは健側の足から前に出し，下りは患側の足から前に出す。

D.×「筋力強化には他動運動が有効」ではなく「筋力強化には自動運動が有効」である。他動運動とは，利用者が身体のなかで動かしていない部分を介護者が動かす運動である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題25　災害時の避難所における高齢者への対応に関する次の記述のうち，適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

A. 避難所生活が長期になる場合は，廃用症候群の発生予防に努める。

B. シルバーカー(高齢者用歩行補助車)を使用していた人にも，なるべく車いすを使ってもらうようにする。

C. 疲労防止のため，日中も臥床してもらうようにする。

D. 歩きやすいように，通路を確保する。

（組み合わせ）

1　A　B

2　A　C

3　A　D

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

４ Ｂ Ｃ
５ Ｃ Ｄ

問題 25：正答 3○××○
●災害により，住み慣れた場所を離れ，日常が崩れて新しい事態に適応しなければいけないことは，高齢者には大きなストレスとなるという認識をもつことは重要である。
A.○個人差はあるが，一瞬にしてすべてを失った高齢者が生活を再建していくことは，心身ともに容易なことではなく，不安，不眠，抑うつ，一時的な認知症などの症状が出ることがある。廃用症候群の予防は重要な目標である。
B.×何に困っているのか，高齢者が表現することに耳を傾け，それに対して適切な情報を伝えて，できる限り余計な不安を取り除くことが重要であり，「不必要といえる車いすの利用をすすめる」という対応は不適切である。
C.×こまめに声かけをして，孤立感を抱かせないように名前を呼び，今の状況をわかりやすく話すことが大切である。よく話を聞き，気持ちをくみ，できるだけ被災前の人的交流を保てるよう配慮する。ぼんやりしている時間が長くならないよう，雑談・体操・散歩などに誘ことも重要である。
D.○安全，安心の観点からも，周囲の人とコミュニケーションを多くとれるように配慮するという観点からも，通路の確保は重要である。
【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題26　次の記述のうち，適切なものに○，適切でないものに×をつけた場合，その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 回復期リハビリテーション病棟は，脳卒中等の患者に対して自宅復帰を目的とし，集中的にリハビリテーションを提供する。
B. 世界保健機構（WHO）による国際生活機能分類（IFC）は，疾病と機能障害，能力低下の結果として「社会的不利」が生じるというモデルである。
C. 介護保険法では，通所リハビリテーションは施設サービス，訪問リハビリテーションは居宅サービスと規定している。
D. リハビリテーションは，利用者の生活機能に関する目標とその実現のための計画を設定して行われるべきものである。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

４　×　○　×　×
５　×　×　○　○

問題 26 正答 3○××○
A.○回復期リハビリテーション病棟は，脳血管障害または大腿骨頚部骨折等の患者に対して，ADL（日常生活動作）能力の向上による寝たきり防止と家庭復帰を目的としてリハプログラムを医師，看護師，PT，OT 等が共同で作成し，リハビリテーションを集中的に行う病棟である。
B.×2001 年の国際生活機能分類（ICF)ではなく，1980 年の国際障害分類（IOIDH)の説明である。国際生活機能分類（ICF)では，従来の機能障害は「心身機能・身体構造」に，能力障害は「活動」に，社会的不利は「参加」にと，それぞれ肯定的な表現となり，これらは総称して「生活機能」と呼ばれている。
C.×通所リハビリテーション（デイケア）は，「施設サービス」ではなく「施設を利用するサービス」であり，介護老人保健施設や病院，診療書において，要介護者等の心身機能の回復を図り，日常生活の自立を助けるために，理学療法や作業療法，その他のリハビリテーションをを行うものである。
D.○1982 年に国連で採択された「障害者に関する世界行動計画」のなかでは，「リハビリテーションとは，身体的，精神的，かつ，社会的に最も適した機能水準の達成を可能にすることによって，各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指し，かつ，時間を限定したプロセスである」と定義されている。
【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.